

大阪工業大学工学部土木工学科 学生員 ○安井 友紀  
 大阪工業大学工学部土木工学科 学生員 小澤 尚志  
 大阪工業大学工学部土木工学科 学生員 葉山 学  
 大阪工業大学工学部土木工学科 正会員 岩崎 義一

## 1. 研究目的と方法

テクノポート大阪は大阪の臨海部に都市機能を集積させる計画であり、南港北地区（コスモスクエア地区）は大阪都市圏の発展をリードしていく拠点としての「まちづくり」を行い、副都心として開花するため様々な開発を遂げてきたテクノポート大阪の集客・業務を担う地区である。当該地区は広域的な拠点となる施設がほとんどであるが隣接の居住ゾーン（ポートタウン）の存在を考え合わせると、住民の立場に沿った開発・整備の視点も重要であり、こうした広域と地区との両方の視点で開発整備していく事は、テクノポート開発の一層の増進につながるものと期待される。また、南港地区的開発を増進させる方法として、とくにやすらぎやゆとりを感じ魅力的な空間にするための整備が重要な要因に思われ、さらに地区の貴重な資源である水際の開発を促進させる方法にも地区住民の意見を取り入れた地区計画が望まれる。よって本研究では大阪湾の咲洲北部に位置するコスモスクエア地区を対象地区として、隣接する居住地区（ポートタウン）内生活者が求めれる開発整備の必要条件を実態調査を通して明らかにする。尚、本調査は下記のような要領でポートタウン内住民にアンケート調査を実施した。

表-1 アンケート調査概要 (ATC…アジア太平洋トレードセンター)

調査方法	アンケート調査書を配布・回収	調査対象	南港ポートタウン内居住者 191世帯無作為抽出
調査期間	1999年12月5日～1999年12月12日	回収率	64%
質問内容	質問1. 野鳥公園、ATC、大阪海洋博物館、咲洲運河についての施設利用目的 質問2. 野鳥公園、ATC、大阪海洋博物館、咲洲運河、ヨコハマタワー全地区における改善点 質問3. 咲洲ヨコハマにおける開発の満足度及び、不満の理由	質問4. 水際線の望まれる利用タイプ及び、利用形態	

## 2. 実態調査にみる特性

(1) 各施設利用の目的：図-1より野鳥公園、海洋博物館、咲洲運河を通して自然や景観を重視して訪れている人が多く、ATCについては買い物目的で訪れる人が多い。また、海洋博物館については子供のいる家庭が多いためか、勉強に役立たせるために施設の利用を望む人が多かった。野鳥公園について施設利用をする反面、利用しない人も2割と多い結果となった。

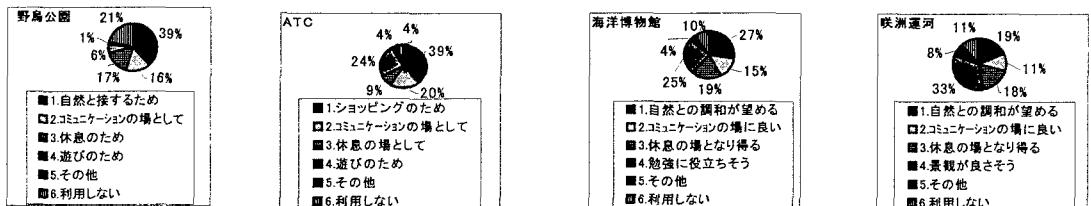


図-1 各施設の利用目的

(2) 各施設及び地区における改善点：図-2より殆どにおいて暴走族問題が一番高い事が特筆される。次いで違法駐車問題も多い。施設別にみると野鳥公園については外灯の少なさが指摘され、外灯を増やしてほしいという意見が多かった。ATCでは高齢者や身体障害者に配慮した設備設置の要望が高く、今後オープンを待っている海洋博物館についても同じ指摘の割合が多い。

(3) 開発における満足度と不満の理由：図-3より「大変満足」している人が皆無であるのに対し、「少し不満」を持っている人々が40%と最もも多い結果となった。開発に「満足している」とはっきり答えられている人だけでみると2割であり、開発に対する不満の度合いが濃く出ている結果となった。また、図-4では各施設における改善点が暴走族問題を受けてか治安・防犯対策に不満を持っている人が最も多い。また、ニュートラムなどの公共交通、道路交通などの交通対策にも不満が多い。

(4) 水際線開発：水際線開発に対する利用とその形態を聞いてみると表-2より小川のせせらぎや自然の池、

Yuki YASUI, Takashi KOZAWA, Gaku HAYAMA, Yoshikazu IWASAKI

波が打ちよせる海浜などの順になっており、いずれの利用タイプにおいても家族と散策で使用したいという声が最も多い。施設利用の目的でも景観・自然が重視されていたように水際線開発の期待は大きいとみられる。

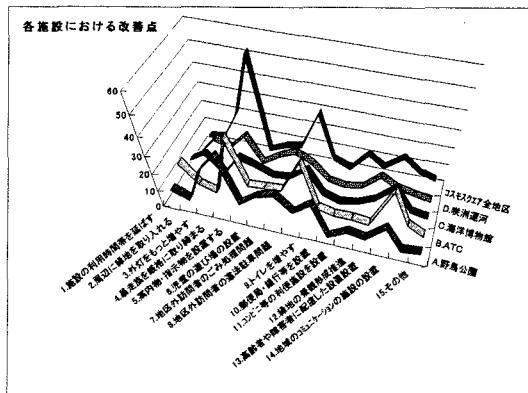
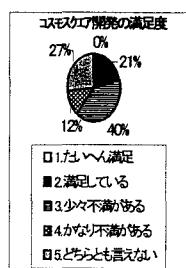


図-2 各施設及び地区の改善点



四 - 3

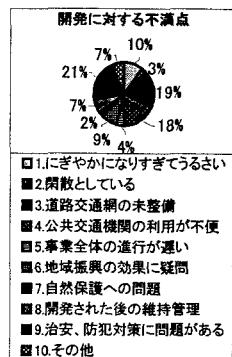


図-4

表-2

	1位	2位	3位
水面のタイプ	・小川のせせらぎ	・自然が充実した池 ・波打つよる海浜	・近くに遊び場のある海浜
水面の利用形態	・家族連れて活用する ・日常散策で使用する	・家族連れて活用する ・日常散策で使用する	・家族連れて活用する ・日常散策で使用する

### 3. 意見聴取による特性

(1) 施設を利用しない人の意見：全体を通して施設自体の存在価値への疑問、魅力のなさが多かった。野鳥公園については最寄りの駅、または居住区から遠く不便である事などの交通手段の悪さがあげられ、公園でゆっくりと過ごす事ができないという指摘もあった。

(2) 改善に対する意見：公共交通・道路交通などのアクセス条件の向上、駐車場などの料金の低減化、施設に対する有効活用への取り組みなどがあった。特にコスモスクエア全地区では治安機関の設置も指摘されており、ここでも防犯対策の取り組みの強化が期待されている。

(3) 開発を不満とする意見：全体の開発が住民不在の開発計画となっており、税による費用負担に不満が大きい。また、交通関連施設が全体的に不備である事、これらに関係して休日に住民が外出を控えざるを得ないという重大な問題も指摘された。

#### 4. 開発上の問題・課題

① 施設の利用：景観など自然を求めて訪れる人が多い中で、利便性・魅力の低さ、対費用効果の低さなどの問題指摘がある。地区住民の期待の高さに応えられるコスモスクエアの整備・維持管理を進める事が必要であり、それによって開発主体と住民の間に良好な関係の構築が期待される。

② 各施設における改善点：地区住民の暴走族に対する不安が一番多いので、ともかく暴走族対策を可及的速やかに実施する必要がある。また、違法駐車問題を解決する上でも交通関係施設の整備・運営の改善が不可欠である。また、高齢者や身体障害者なども含めた幅広い市民の利用を可能にする施設の改善が求められる。

③ 開発における満足度と不満：各種施設の整備水準の低さもあるが治安の低さも指摘されており、各種施設の利便さと防犯を考慮した整備・運営・利用促進が満足度の鍵を握っていると言えよう

④ 水際線開発：家族など利用者にやすらぎを与えるようなタイプが望まれており、ボートなど水上空間も活

用し、気軽に安心して利用できる計画が必要である。

以上を総括すると、特にテクノホールドのような大規模開発では単に建設で終わるのではなく、利用者、近隣への影響、後の処理という事までを考慮し、ケアしていく事が必要であろう。特に今回指摘された地区住民が安心して生活でき、隣接のコスモスクエア地区を利用できるような「まち」としての要素をしっかりと保持させる事が必要である。具体的には派出所の増設、コスモスクエア地区利用者向けの附帯施設の充実としっかりとした運用などが第一義であろう。こうした治安、防犯、住民の安全を確保しながら、住民がコスモスクエア地区に求める諸条件の確保に努める必要がある。また、このような対応は地区開発の向上にもつながるものと思われ、快適で魅力のある都市開発の発展にも貢献するものであろう。